



2026 夏が好き！本が好き！！

～先生方が推すこの夏の1冊～

図書館だより特別版 2026年7月9日号

秋草学園高等学校 図書館

～目 次～

遠山季代子先生	『16歳からのリーダーシップ』 一條和生, 細田高広(著)/日経BP 日本経済新聞出版/361-イ p.1
山崎綾子先生	『熟柿』 佐藤正午(著)/KADOKAWA/913.6-サ p.1
太田興一先生	『生きる勇気がわく言葉—あなたを支えてくれる名言一言』 夏村波夫(編)/河出書房新社/太田先生にお借りして展示。ふじみ野市図書館も所蔵 . . . p.1
秋野真理先生	『バカとテストと召喚獣』 井上堅二(著)/エンターブレイン/B913.6-イ-1 p.2
伊久美くるみ先生	①『粉瘤息子都落ち扱』 更地郊(著)/集英社/913.6-サ p.2 ②『フィールダー』 古谷田奈月(著)/集英社/B913.6-コ p.2 ③『あれは閃光、ぼくらの心中』 竹宮ゆゆこ(著)/文藝春秋/B913.6-タ p.2 ④『世界99』 上・下/村田沙耶香(著)/集英社/913.6-ム-1,2 p.2
稲本明美先生	①『舟を編む』 三浦しをん(著)/光文社/913.6-ミ p.2 ②『泣きたい夜の甘味処』 中山有香里(著)/KADOKAWA/726-ナ p.2
稲荷安菜先生	『また、同じ夢を見ていた』 住野よる(著)/双葉社/913.6-ヌ p.2
今井千鶴子先生	『重力ピエロ』 伊坂幸太郎(著)/新潮社/B913.6-イ p.3
大畠典子先生	『茨木のり子詩集』 茨木のり子(著)/岩波書店/B911.5-イ p.3
小川萌花先生	『もものかんづめ』 さくらももこ(著)/集英社/914.6-サ p.3
荻野久仁子先生	『10年後、きみに今日の話をしよう。』 沖田円(著)/マイナビ出版/B913.6-オ p.3
鹿島美香先生	『やっぱり食べに行こう。』 原田マハ(著)/毎日新聞出版/B915.6-ハ p.3
加藤裕之先生	①『オー・ヘンリー傑作選』 オー・ヘンリー(著), 大津栄一郎(訳)/岩波書店/933-ハ p.4 ②『もうじきたべられるぼく』 はせがわゆうじ(作)/中央公論新社/E-ハ p.4
金井智明先生	『鼻行類 新しく発見された哺乳類の構造と生活』 ハラルト・シュテンプケ(著), 日高敏隆, 羽田節子(訳)/平凡社/B480-ツ p.4
兼杉尚恵先生	『凶解眠れなくなるほど面白い栄養素の話』 牧野直子(監修)/日本文芸社/498-マ p.5
木村智陽先生	『あの夏を生きた君へ 時を超えた、あの日の約束』 水野ユージ(著)/スターツ出版/913.6-ミ p.5
楠見日和先生	『霧のむこうのふしぎな町』 柏葉幸子(作)/講談社/913.6-カ p.5

栗山昌子先生	『高校数学の基礎が 150 分でわかる本 フルカラー図解』 米田優峻(著)/ダイヤモンド社/410-3 p.5
黒坂将吾先生	『ミラクル』 辻仁成(著)/新潮社/B913.6-ツ p.6
小林建翔先生	『利己的な遺伝子』 リチャード・ドーキンス(著) 日高敏隆, 岸由二, 羽田節子, 垂水雄二(訳)/紀伊國屋書店/467-ト p.6
JOY SALAZAR 先生	『The boy, the mole, the fox and the horse』 Charlie Mackesy(著)/HarperOne/E-M p.6
重田啓輔先生	『ゲッベルスと私 ナチ宣伝相秘書の独白』 ブルンヒルデ・ポムゼル, トーレ・D.ハンゼン(著) 森内薫, 赤坂桃子(訳)/紀伊國屋書店/234-ホ p.6
島田力先生	『ハムレット 改版』 シェイクスピア(著), 福田恒存(訳)/新潮社/B932-ツ p.7
鈴木信滉先生	『高校時代に考えておく50のこと・女子編』 有川真由美(著)/PHP 研究所/159-ア p.7
関口和孝先生	①『遙かなる水の音』 村山由佳(著)/集英社/B913.6-ム p.7 ②『AI と生きる 対話から始まる成長の物語』 結城浩(著)/SBクリエイティブ/007-1 p.7
染谷孝先生	『ボッコちゃん 改版』 星新一(著)/新潮社/B913.6-ホ p.7
染谷凌平先生	『みがいてあげる』 ふくべあきひろ(ぶん), おおのこうへい(え)/教育画劇/E-オ . . . p.7
高橋貴与人先生	『17歳のときに知りたかった受験のこと、人生のこと。』 びーやま(著)/ダイヤモンド社/376-ビ p.8
田中由樹先生	『クライマーズ・ハイ』 横山秀夫(著)/文藝春秋/913.6-3 p.8
塚田浩文先生	①『李香蘭私の半生』 山口淑子, 藤原作弥(著)/朝日新聞出版/B778-ヤ p.8 ②『母という呪縛娘という牢獄』 齊藤彩(著)/講談社/B368-サ p.9
奈須祥生先生	『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』 岩崎夏海(著)/ダイヤモンド社/913.6-イ p.9
平田慧子先生	『小さいことにくよくよするな! しょせん、すべては小さなこと』 リチャード・カールソン(著)/サンマーク出版/159-カ p.9
福田朔先生	『図書室のはこぶね = The Ark of Library』 名取佐和子(著)/実業之日本社/913.6-ナ p.9
本多重男先生	『デモクラシーのいろは』 森絵都(著)/KADOKAWA/913.6-ト p.10
升田晃三先生	『夢をかなえるゾウ』 水野敬也(著)/飛鳥新社/913.6-ミ p.10

松下優美花先生	『みずうみ』 よしもとばなな(著)/フォイル/913.6-ヨ p.10
丸一佳夏先生	『三千円の使いかた』 原田ひ香(著)/中央公論新社/B913.6-ハ p.10
水谷朱夏先生	①『爆弾』 呉勝浩(著)/講談社/913.6-ジ p.10
	②『白夜行』 東野圭吾(著)/集英社/B913.6-ヒ p.11
三ツ木理子先生	『嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え』 岸見一郎, 古賀史健(著)/ダイヤモンド社/140-キ p.11
守谷真依先生	①『なにも見ていない 名画をめぐる六つの冒険』 ダニエル・アラス(著), 宮下志朗(翻訳)/筑摩書房/B723-ア p.11
	②『遊びと人間』 ロジェ・カイヨワ(著), 多田道太郎, 塚崎幹夫(翻訳)/講談社/B104-カ p.11
	③『そいつはほんとに敵なのか』 碓雪恵(著)/hayaoki books/914.6-イ p.11
	④『ポムポムプリンと心ぼかぼかな毎日』 サンリオ(キャラクター著作)/KADOKAWA/188-サ p.12
	⑤『VTuber 学』 岡本健, 山野弘樹, 吉川慧(編著)/岩波書店/007-オ p.12
結城唯善先生	『あん』 ドリアン助川(著)/ポプラ社/913.6-ド p.12
湯本美紀先生	①『この夏の星を見る = Catching The Stars of This Summer』 辻村深月(著)/KADOKAWA/913.6-ツ p.12
	②『エピクロスの処方箋』 夏川草介(著)/水鈴社/913.6-ナ p.12
	③『星の教室』 高田郁(著)/角川春樹事務所/913.6-タ p.12
	④『カラフル Colorful』 阿部暁子(著)/集英社/913.6-ア p.13
吉浪祐香先生	『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 汐見夏衛(著)/スターツ出版/B913.6-ツ-1 p.13
鈴木しのぶ司書	『源氏物語 A・ウェイリー版』 紫式部(著), A. ウェイリー(英訳) 穂矢まりえ, 森山恵 (訳)/左右社/913.3-ム-1~4 p.13
横関麻里司書	『明治のナイチンゲール大関和物語』 田中ひかる(著)/中央公論新社/B289.1-オ p.13

2026 夏が好き！本が好き！！

～先生方が推すこの夏の1冊～

図書館だより特別版 2026年7月9日号

秋草学園高等学校 図書館

遠山季代子先生のおすすめは……

『16歳からのリーダーシップ』

361-1

一條和生, 細田高広(著)

日経 BP 日本経済新聞出版

「リーダーシップ」と聞くと、多くの人は、人を引っ張る力や指示を出す力を思い浮かべるかもしれません。しかし、本書が伝えているのは、それだけではありません。リーダーシップとは、特別な才能や肩書きによって与えられるものではなく、一人ひとりの日々の姿勢や行動の中で育まれていくものだということを、本書は静かに語りかけてくれます。

主体的に考えること、困難な課題から目を背けずに向き合うこと、学び続ける姿勢をもち、自ら行動を起こすこと。そして、自分の言葉や行動に責任をもち、周囲から信頼される人であろうと努めること。そのような日々の積み重ねが、やがて前に立って人を導く力や、周囲によい影響をもたらす力へとつながっていきます。

本書には、リーダーシップを身につけるための技術や方法だけでなく、一人の人間としてどのように考え、どのような姿勢で物事に向き合うべきかについて、多くの示唆が散りばめられています。具体的な事例を交えながら語られる内容は、高校生にも理解しやすく、それでいて大人が読んでも新たな気づきを得られる深さを備えています。

本書を読み終えたとき、「リーダーとは誰か」という問いは、「自分はどのような人でありたいのか」「どのように行動していききたいのか」という、自らの在り方を見つめる問いへと導かれるでしょう。それは、リーダーを目指すだけでなく、自分らしく誠実に生きたいと願うすべての人に向けられた問いでもあります。

将来どのような立場に立つとしても、その土台となるのは日々の姿勢です。本書は、リーダーシップについて考える一冊であると同時に、自らの生き方を見つめ直す機会を与えてくれる一冊でもあります。

山崎綾子先生のおすすめは……

『熟柿』



冒頭から重たい内容だと思いましたが、読む手が止まらず、一気に読んでしまいました。「熟柿」という言葉の意味がわかった時に心から感動をしました。

913.6-サ

佐藤正午(著)

KADOKAWA

太田興一先生のおすすめは……

『生きる勇気がわく言葉—あなたを支えてくれる名言一言』

自宅で本棚を眺めていたら、なぜかこの本が目にとまった。色褪せた頁をめくると、まえがきに「体温のある“言葉”で 冷えた心を温めませんか」とある。疲れているのかな……。

さらに、「苦しいとき、悲しいとき、たった一言のアドバイスで人の心は救われることがあります。生きていくための、確かな手掛かりとなる言葉との出会いです」「ぜひ言の葉を敷き詰めた小道を散歩してみてください」とあった。

本校の教育方針『ひと葉一葉 色よく染めよもみじ葉の おくれさきだつものはあれども』ではないが、素敵な「葉」たちに出会う夏もわるくない。

太田先生にお借りして展示

ふじみ野市図書館も所蔵

夏村波夫(編)

河出書房新社

秋野真理先生のおすすめは……

『バカとテストと召喚獣』



「こんな学校生活があったら楽しいだろうなー」と思えるような学園ものです。

B913.6-イ-1
井上堅二(著)
エンターブレイン
(シリーズで18冊)

伊久美くるみ先生のおすすめは……

読了リストを見返したら、ほとんどが一人称小説でした。意識的に選んでいるわけではないので、引き寄せられているのでしょうか。去年読んだものの中から4つご紹介します。

①『粉瘤息子都落ち扱』

主人公は若い男。脳内垂れ流しな感じなので、好みが分かれるかもしれません。

913.6-サ
更地郊(著)
集英社

②『フィールダー』

主人公は出版社で働きつつソシャゲに精を出す男。わりとヘビーなので、あらすじを確認してから読んだ方がいいかも。

B913.6-ジ
古谷田奈月(著)
集英社

③『あれは閃光、ぼくらの心中』

主人公は進路に悩む中学生と部屋が汚いホスト。世界って捨てたもんじゃないなという気持ちになれます。

B913.6-ク
竹宮ゆゆこ(著)
文藝春秋

④『世界99』上・下

主人公は女性。上下巻で、どちらも長く重いです。何を注意書きに書けばいいかわからないくらいなんでもありなディストピアSF。世界ってどうにもならないのかもしれないという気持ちになりました。

913.6-ム-1,2
村田沙耶香(著)
集英社

稲本明美先生のおすすめは……

①『舟を編む』

高校時代、英語の先生方がよく言っていました。
「辞書はひくものではなく読むものです」と。
デジタル全盛の時代だからこそ大切にしたい教えです。

913.6-ミ
三浦しをん(著)
光文社

②『泣きたい夜の甘味処』



「ケセラセラ」「人として」ときどき「ダーリン」
そしてこの本。今の私たちにとって必要不可欠なものです。

726-ナ
中山有香里(著)
KADOKAWA

稲荷安菜先生のおすすめは……

『また、同じ夢を見ていた』

幸せとは何か。幸せにはいろんな形があっていいのだと、改めて「幸せ」について考えた本でした。あまり読書をしない私ですが、とても引き込まれる内容だったので、おすすめです☆

913.6-ル
住野よる(著)
双葉社

今井千鶴子先生のおすすめは……

『重カピエロ』

5月24日中央競馬（JRA）のGI・オークスにて女性騎手として初めてGIを制覇した今村聖奈騎手が騎乗した『ジュウリョクピエロ』

馬名の由来になったこの小説『重カピエロ』もジュウリョクピエロの走りに劣らず、『春が二階から落ちてきた』という印象的な出だして人々の心を惹きつけます。

辛い過去を背負う兄弟の周りで起こる連続放火事件。なぜかこの事件を解こうと奮起する弟に巻き込まれる僕。事件を追っていくと見えてくる兄弟それぞれの思惑。一体この事件からは何が浮かび上がってくるのか。

重カピエロというフレーズがどこに登場するのも気にかけてながら読んでみてください。この名をつけようと決めた馬主さんの気持ちを想像するのもおもしろいです。

B913.6-1

伊坂幸太郎(著)

新潮社

大畠典子先生のおすすめは……

『茨木のり子詩集』

この詩集の中の「自分の感受性くらい」という詩を読みたくて購入しました。昨年度の3学期の始業式に前校長の関口先生が紹介して下さった詩です。自分の感受性くらい自分で守ればかものよ」という力強く温かなメッセージは声に出して読むと言葉の重みがぐっと心に響きます。みなさんにもぜひ声に出して読んで欲しいです♡

B911.5-1

茨木のり子(著)

岩波書店

小川萌花先生のおすすめは……

『もものかんづめ』



最近笑っていないな…なにかおもしろいことないかな…と思っている人におすすめの1冊です！

思わず笑ってしまうようなエッセイで、ワードセンスも抜群です！普段あまり本を読まない人でも、読みやすいと思うので、気になった人はぜひ手に取ってみてください！

914.6-サ

さくらももこ(著)

集英社

荻野久仁子先生のおすすめは……

『10年後、きみに今日の話をして。』

母とふたりで平穏に暮らしている主人公の蒼土(あおと)の前に、7年前に家を出ていった姉の楓(かえで)が娘の麦(むぎ)をつれて突然帰宅。麦に振り回されながら、蒼土が次第に自分を見つめ直していく、という物語です。

自分が今まで押し殺してきた思いに対し、逃げずに向き合う姿は素敵だな、と思います。

B913.6-オ

沖田円(著)

マイナビ出版

鹿島美香先生のおすすめは……

『やっぱり食べに行こう。』

「食べること」で「生きる希望」に繋がると感じられる物語です。

B915.6-ハ

原田マハ(著)

毎日新聞出版



加藤裕之先生のおすすめは……

①『オー・ヘンリー傑作選』

933-ハ
オー・ヘンリー(著)
大津栄一郎(訳)
岩波書店

私が中学生の時、太田裕美と言う歌手が好きでした。当時ヒットした曲の1つに「最後の一葉」と言う曲があります。この曲をきっかけにオー・ヘンリーと言う作家を知り、その作品を読んでみました。オー・ヘンリーの作品の特徴はすべて短編小説で、市井の人々の日常生活を細やかに劇的に描写していることです。ストーリーがテンポよく展開し、劇的な結末を迎える作品が多いです。短編小説なのですぐに読み終わることができます。You Tube 世代のみなさんにとっても手にとりやすい本だと思います。お薦めの作品もいくつかありますが、それはみなさんが読んで判断してみてください。ちなみに太田裕美のCDは今でも車を運転しながらよく聴いています。

②『もうじきたべられるぼく』

E-ハ
はせがわゆうじ(作)
中央公論新社

この絵本自体は、1分もあればすべて読み終わることができます。私もおそらく100回以上は読んでいます。何回読んでも結末は同じです。でも、何回読んでも、初めて読んだ時と同じくらい考えさせられます。何について考えさせられるのか、みなさんもぜひ読んでみてください。

金井智明先生のおすすめは……

『鼻行類 新しく発見された哺乳類の構造と生活』

B480-ヲ
ハラルト・シュテュンプケ(著)
日高敏隆, 羽田節子(訳)
平凡社

『鼻』という器官は多くの哺乳類においては気体成分中に含まれる化学物質を受容する機能を持つ。これにより嗅覚が発達し、嗅ぎ分けた匂いにより動物は対応した反応を起こすことが可能になったのだ(同種間の非接触的情報伝達手段であるフェロモンを受容する嗅鼻器官も発達しているが、ヒトにおいては退化していることは淑女であれば教養のうちであろう)。

本書は、著者であるシュテュンプケが1941年に発見した、地理的に隔離された太平洋上の群島^{*1}において極めて特異な『鼻』に発生的起源をもつ哺乳類の新たな分類である鼻行類について体系的に記している。その多岐にわたる系統的变化により、『鼻』で歩いたり跳んだり疑似餌としたり多様な機能を獲得した分類が報告されている(個人的な紹介で恐縮ではあるが、金井が最も注目したいのはダンボハナアルキ(*Otopteryx volitans*)^{*2}である。読了したころにはなんとミーハーなことかと笑われると思うとぞっとする)。現代において哺乳類の新たな目^{*3}が発見されるとは(それもさらに多様な下位分類が分化しているとは)生物学界に震撼が走ったという。さらに、形態・解剖・個体発生・生理・行動・食性・社会性・種間関係・系統進化に至るまで、驚くほど短期間で調査研究が行われているのは感心するほかない。

しかし、最初の発見および多くの研究者による研究されているにもかかわらず、一般的な動物図鑑にも記載されておらず、博物館などでも剥製や標本を見たことはないではないか。実は鼻行類の研究はとある理由で止まってしまっている。極めて妙なことであるとは思わないだろうか。そのあまりに悲劇的で生物学の歴史上最も大きな損失と考えられる事態の最大の理由は本書を通して知ってもらいたい。

本気の学問書である。ここまでお堅い紹介を読めたなら読んでみるといい。願わくは、生物基礎・生物を学習した同志には是非自分の知識が本書を読み進めるうえで通用するのか試してみしてほしい。

※1-ハイアイアイ島 発見はシュテュンプケではなく、第二次世界大戦中のスウェーデン軍人であり、彼は日本軍の捕虜収容所から脱走した際に1つの島に漂着した。

※2-シュテュンプケは *Hopsorrhinus virideiauratus* と命名した。

※3-目 生物の分類階級のひとつ。上位から、界・門・綱・目・科・属・種。



兼杉尚恵先生のおすすめは……

『図解眠れなくなるほど面白い栄養素の話』

人体に必要な栄養の種類から、土の食べ物にどんな栄養が含まれているのか、また、栄養素の働きまで栄養素に関する情報を図解でわかりやすく解説されています。

体を作るのに欠かせない、糖質、たんぱく質、脂質の三大栄養素の話から、「15時のケーキより21時のフルーツの方が太る」「トクホを飲めば健康になる?」「ゴマは擦らないと健康効果ゼロ?」といった意外と知られていない栄養素の話が幅広く紹介されています。

読んだ後は、いつもの食卓が栄養バランス満点の超健康食に変わるかも??

498-7
牧野直子(監修)
日本文芸社

木村智陽先生のおすすめは……

『あの夏を生きた君へ 時を超えた、あの日の約束』

学校でのいじめに耐えられず、不登校になってしまった中学2年生の千鶴。生きること嫌気が差し、「死にたい」と思い詰める日々を過ごしていた。彼女が唯一心を許していたのが祖母の存在であった。ある夏の日、その祖母が危篤に陥ってしまった。ショックを受けた千鶴の前に、ユキオという不思議な少年が現れる。不思議なことに千鶴にしかユキオの姿は見えない。どうやらユキオは幽霊のようだ。彼は何の目的で千鶴の前に現れたのか。時を超えた切ない約束、そして深い縁で繋がれた命と涙の物語。あなたは戦争の悲惨さと命の尊さを実感することでしょう。ぜひ読んでください!

913.6-ミ
水野ユージ(著)
スターツ出版

楠見日和先生のおすすめは……

『霧のむこうのふしぎな町』

小学6年生のリナは、毎年夏休みに家族旅行に行きますが、今年の夏は一人で「霧の谷」に下宿に行くことに。家を出る時に持たされたピエロの傘に導かれ、下宿先のピコット屋敷にたどり着いたリナは、屋敷の主人で魔女のようなピコットばあさんに「働かざる者食うべからず!」と言われてしまいます。最初は何もできず、自分に自信のないリナですが、霧の谷の住人と交流し、「めちゃくちゃ通り」に建ち並ぶさまざまなお店で働くうちに、だんだんと成長していきます。

児童書ではありますが、小学生の時に初めて読んでから、大人になった今でも、そっと読み返しては元気をもらっています。登場するキャラクターが全員魅力的で、挿絵も可愛い、私のお気に入りの一冊です。ぜひ読んでみてください。

913.6-カ
柏葉幸子(作)
講談社

栗山昌子先生のおすすめは……

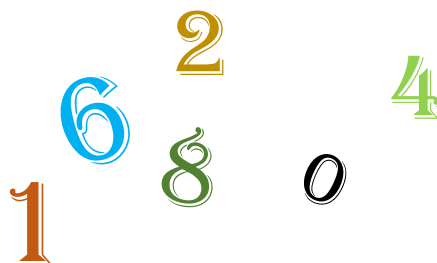
『高校数学の基礎が150分でわかる本 フルカラー図解』

この本の著者である米田優峻さんは、中1からプログラミングにハマり、中高生向けの世界大会である国際情報オリンピックで2018年から2020年まで3年連続で金メダルを獲得した方です。そんな彼が大学生の時に、高校数学の基礎をわかりやすくまとめたのがこの本です。

本書では、高校数学を学ぶ上で必要となる基礎知識が、フルカラー図解でわかりやすく解説されています。ページをめくるだけでも楽しく、「数学って意外とおもしろいかも!」と思わせてくれる一冊です。公式を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」という考え方まで丁寧に説明されているので、数学に苦手意識がある人や学び直したい人にもおすすめです。

AIやプログラミングが身近になった今、数学と情報を結び付けて考える力がますます求められています。夏休みに少しでも数学の世界をのぞいてみませんか。高校数学の基礎を楽しく学び直せる一冊です。

410-3
米田優峻(著)
ダイヤモンド社



黒坂将吾先生のおすすめは……

『ミラクル』

母に会ったことのない少年が、母に一目会いたいと模索します。他者との関わりを通して様々のことを考え、大きく成長します。

新潮文庫には右側ページに絵が描かれていて、本文の心情を表しています。
(辻仁成氏は作者・ミュージシャンで故・中山美穂氏の元夫)

B913.6-ツ

辻仁成(著)

新潮社

小林建翔先生のおすすめは……

『利己的な遺伝子』

私たちは自分の意志で恋をし、家族を愛し、日々の選択をして生きていると信じて疑いません。しかし本書は、そんな私たちの傲慢な人間観を根底からひっくり返します。生命の主演は私たち個体ではなく、世代を超えて生き残り続けようとする「遺伝子」であり、私たちはその生存戦略のために巧みに操られているマシーンに過ぎない。世界中に衝撃を与えたこの冷徹で興味深い視点は、現代の私たちに驚くほどリアルに突き刺さります。

なぜなら今の私たちは、「AIを操っているつもりが、実はAIのアルゴリズムに思考や行動を誘導されている」という、まったく同じ構造の中に生きているからです。

SNSのタイムラインに時間を奪われ、AIのレコメンド通りにモノを買い、スマホの通知に一喜一憂する日々。これは、遺伝子に操られてきた私たちが、今度は自ら作り出した「デジタルな遺伝子(AI)」に主導権を明け渡している姿そのものではないでしょうか。生物としての根源的な仕組み(遺伝子)と、現代のテクノロジー(AI)の奴隷になりかけている私たちの姿が、不思議とシンクロして見えてくるはず。自分が「操られるだけの乗り物」で終わるのか、それともその構造を理解して抗うのか。あなたの世界感をアップデートする読書体験を。

467-ド

リチャード・ドーキンス(著)

日高敏隆, 岸由二, 羽田節子,

垂水雄二(訳)

紀伊國屋書店

JOY SALAZAR 先生のおすすめは……

『The boy, the mole, the fox and the horse』

It is a beautifully illustrated story about friendship, kindness, courage and hope. Through simple conversations, it shares inspiring lessons about life and resilience.

E-M

Charlie Mackesy(著)

HarperOne

重田啓輔先生のおすすめは……

『ゲッベルスと私 ナチ宣伝相秘書の独白』

ゲッベルスとは、ナチス政権で宣伝省大臣を務めた男である。この本は彼のタイピスト兼秘書を務めた私こと、ブルンヒルデ・ポムゼルのインタビューをまとめたものである。インタビュー時、ポムゼルは103歳だったが、当時のゲッベルスの様子を、演説で人々を戦争へと熱狂させる姿を「とても恐ろしいと思った」と克明に語る。しかし、そんな人物の間近に仕えたポムゼルには、罪の意識は全くない。「何も知らなかった。」「私はただ、責任を持って仕事をしただけ。」自分には何の罪もないというポムゼルの発言は、ナチスの犯罪と向き合うことを課題としてきた戦後ドイツの歴史と矛盾する。「何も知らなかった」というポムゼルだが、裏返せば強制収容所に送られた人々の声や、政権への抵抗者の声を聴こうとしなかったのだろう。なぜこれらの声を知らずに、傍観し続けられたのか。その疑問に対するポムゼルの言葉は、読者の痛い所を突いてくる。あなたはポムゼルに対して、どう思うだろうか。

234-ホ

ブルンヒルデ・ポムゼル,

トーレ・D.ハンゼン(著)

森内薫, 赤坂桃子(訳)

紀伊國屋書店



島田力先生のおすすめは……

『ハムレット 改版』

シェイクスピアの代表作であり、世界的文学の最高傑作の一つ。この作品を知らずとも、“To be, or not to be, that is the question.”というセリフは聞いたことがあるのではないのでしょうか？情景を思い浮かべながら、スリリングなストーリーを楽しんでください。

B932-7
シェイクスピア(著)
福田恒存(訳)
新潮社

鈴木信滉先生のおすすめは……

『高校時代に考えておく50のこと・女子編』

1度きりの高校生活を少しでも充実したものにするヒントが詰まっています。人それぞれ「幸せ」の形は違います。それぞれの「幸せ」を追い求め、ひたむきに努力してほしいです。

159-7
有川真由美(著)
PHP 研究所

関口和孝先生のおすすめは……

①『遙かなる水の音』

久しぶりにふと思い出した作品ですが、調べてみると2年生のみなさんが生まれた年であろう2009年に発表された作品でした。「切ないほどの旅情」と「答えのない感情の機微」に触れることのできる作品ですので、ぜひともその世界に身を投じてみてください。

B913.6-4
村山由佳(著)
集英社

②『AIと生きる 対話から始まる成長の物語』

数年前に比べると、「AI」という存在はみなさんにとって大分当たり前となってきたようです。その一方で、「AIを正しく効果的に利用する」ということはそこまで一般的に普及していないようにも思われます。この本はそのようなギャップを分かりやすく埋めてくれる一冊です。一読することを強くおすすめします。

007-1
結城浩(著)
SBクリエイティブ

染谷孝先生のおすすめは……

『ボッコちゃん 改版』

おすすめの本は星新一さんの『ボッコちゃん』です。私は高校時代、本を読むのが苦手でした。しかし、この本は短編作品が集まっているためとても読みやすく、SFやブラックユーモアの要素もあって一気に物語に引き込まれます。私はこの本をきっかけに読書が好きになりました。ぜひ、普段あまり本を読まない人に読んでほしい一冊です。

B913.6-ホ
星新一(著)
新潮社

染谷凌平先生のおすすめは……

『みがいてあげる』

あの有名絵本『たべてあげる』の続編！（『たべてあげる』を見ていない方はそちらもぜひ）

今回は、歯磨きを促す内容になっていますが、どちらもトラウマ級の絵本です。かなりインパクトが強いですが、ぜひ見てください！

E-オ
ふくべあきひろ(ぶん)
おおのこうへい(え)
教育画劇



高橋貴与人先生のおすすめは……

『17歳のときに知りたかった受験のこと、人生のこと。』

チャンネル登録者60万人の超人気YouTuber.wakatte.TVが書き下ろした勉強方法から大学選びまで、学校では教えてくれない情報を徹底的に詰め込んだ唯一無二の書です。

376-ビ
びーやま(著)
ダイヤモンド社

田中由樹先生のおすすめは……

『クライマーズ・ハイ』

日航機123便墜落事故が題材の小説です。

個人的にも毎年夏になると思いだす事故であり、夏になると読んでみようと思う本です。

内容は、事故報道を行う地方新聞社の記者が主人公で、登山が好きな主人公が、事故取材の責任者になって翻弄し、悲惨な事故の報道をどのようにすればよいのか悩みながらも、記事にしていく物語です。

この作品の地方新聞社は実在する上毛新聞社がモデルとなっており、作者も実際にこの新聞社で記者として働いていた時の体験が物語のもとになっていますのでリアリティーがあります。

因みに、上毛新聞社は嵐の櫻井翔のお爺さんも記者をしていたという。地元では有名な新聞社である。

913.6-3
横山秀夫(著)
文藝春秋



塚田浩文先生のおすすめは……

①『李香蘭私の半生』

最近読んだ本のなかから紹介させていただきます。山口淑子さんという方は父や母から聞いてお名前や彼女の歌った曲くらいは知っていたのですが、詳しくはどのような方か知らず、たまたま書店でこの本を見つけて目についたため、衝動的に買ってしまい読んでみました。500ページくらいある分厚い本なので夏休みのような長期休暇に読破するにはちょうどよいですし、当時の山口さん(李香蘭)は皆さんとほぼ年代代ですので、一人の女性の波乱に満ちた人生のなかから学ぶことは多いと思います。

山口淑子さんは戦前・戦中に女優・歌手として、満州映画協会のスターであった中国人としての「李香蘭」という名前でよく知られています。彼女の有名な楽曲としては「蘇州夜曲」や「夜来香」が特に知られています。先ほど彼女は中国人だと書きましたが、本当は生粋の日本人です。彼女は日本人であることを隠し、中国人の女優・歌手として大スターになりました。しかし、戦後に親日的な映画に多数出演したということで、漢奸(反逆中国人)として銃殺刑の宣告を受け、ロシア人の友人に自分が日本人であることを証明する戸籍を実家から取ってきてもらい、命からがら日本へ帰ってきたという、強さと聡明さで運命を切り拓いた女性です。そして、戦後の彼女は司会者や参議院議員としても活躍するという、まさに波乱万丈の人生を送っています。

あまり、ここで書くとネタバレになってしまうので、これ以上は書きませんが、日中両国の狭間に立たされ、数奇な運命から学ぶことは多いと思いますし、当時の日中関係を学ぶこともできるので、日本史の勉強もなります。ぜひ読んでみてください。

B778-ヤ
山口淑子, 藤原作弥(著)
朝日新聞出版

②『母という呪縛娘という牢獄』

B368-サ

齊藤彩(著)

講談社

この本も最近読んだ本です、2022年に単行本として刊行され、以前から読みたかったのですが、文庫本として改めて出されたので、買って読んでみました。くどくどあらすじは書きません。まずは読んでみてください。

母親と娘との関係について、改めて考えさせられる本です。

主人公の高崎あかり(仮名)は母親の敷いたレールの上を歩かされる人生に納得いかず、そのレールの上を歩こうとしない主人公に激怒する母親の精神的虐待、肉体的虐待に耐え切れず、ついにはそのかけがえのない母親を殺害してしまうという話です。その彼女の葛藤や、なんとか、自分のめざしている道に進もうとして、母親と向き合うその様子が克明に生々しく描かれ、あっという間に読んでしまいました。あらすじはこのあたりにします。

私にも同居している母親がいますが、22年前にいったん教師の道を離れて、まったく違う世界に飛び込もうとしたときに、「あなたが決めたことなんだから、あなたのやりたいようにやりなさい。あなただったらその世界でもやっていける」と背中をおされてその道に飛び込もうとしました。

結果的には教師に戻りましたが、その挑戦は今の私にとって最大の糧になっています。皆さんも自分の敷いたレールに沿って人生を歩んでいただきたいと思います。

奈須祥生先生のおすすめは……

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』

913.6-1

岩崎夏海(著)

ダイヤモンド社

「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」……

敏腕マネージャーと野球部の仲間たちが甲子園を目指して奮闘する青春小説。高校野球の女子マネージャーのみなみちゃんは、マネージャーの仕事のために、ドラッカーの『マネジメント』を間違っ買ってしまいます。はじめは難しくて後悔するのですが、しだいに野球部のマネジメントにも生かせることに気がきます。これまでのドラッカー読者だけでなく、高校生や大学生、そして若手ビジネスパーソンなど多くの人に読んでほしい一冊。

平田慧子先生のおすすめは……

『小さいことにくよくよするな! しょせん、すべては小さなこと』

159-カ

リチャード・カールソン(著)

サンマーク出版

「しょせん、すべては小さなこと」。これはこの本の副題にもなっています。

筆者が「心の持ちよう」について説いた一冊で、日頃から些細なことを気にしてしまいがちな人におすすめです。考え方の話もあれば実践できる Tips のような話もあります。

私はこの本に書かれていること、前々から実践できていました! 読み返すと勇気をもらえます。

福田朔先生のおすすめは……

『図書室のはこぶね = The Ark of Library』

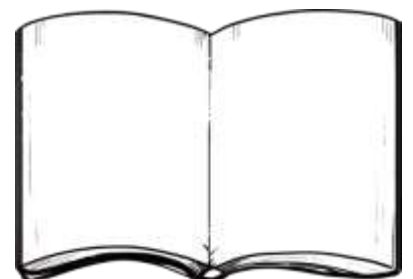
913.6-ナ

名取佐和子(著)

実業之日本社

高校の図書館が舞台になっています。別に、読みたい本が浮かばなくても、調べたいことがなくても、気軽にふらっと図書館に行ってみたくなると思います。

ずらっと並ぶ本の背表紙を眺めたり、司書さんとのお話しする中で、自分にぴったりの本に出会って、ぜひ私におすすめしてください(笑)。



本多重男先生のおすすめは……

『デモクラシーのいろは』

司書の先生から、「この本は本多先生が読みたい内容ですヨ」と紹介されました。戦後の日本の中で、戦前とは異なる民主主義を学ぶ、4人の女性達とその4人にレッスンする日系の米兵の物語です。予想もしない展開に一度読み終えた後に、再びペラペラめくって、展開を確認しました。何を讀んだらよいか、迷っている生徒がいましたら、司書の先生とお話しをしてみましょう、あなたに合った本を紹介してさせていただきますヨ。

913.6-㊦
森絵都(著)
KADOKAWA

升田晃三先生のおすすめは……

『夢をかなえるゾウ』

勉強や部活動、進路選択など、目標に向かって努力する皆さんにぜひ読んでみてほしい一冊です。

成功を「する人」と「しない人」の違いは才能ではなく行動にあるかもしれません。

913.6-ミ
水野敬也(著)
飛鳥新社

松下優美花先生のおすすめは……

『みずうみ』

よしもとばななの小説には毎回こころにグッと刺さるフレーズが登場する。こういうものとの出会いも読書の醍醐味だと思う。

今回私がグッととなった部分を紹介したい。これを読んで「お！」と思った人はぜひこの夏に読んでみると良いかもしれない。

「中島くんがちひろさん、と言うと、私の名前が宝物のようにいちいち輝いた。それを私は不思議に思った。あれ？今、光った。もう一回呼んでみて、と。」(p.27より)

913.6-㊦
よしもとばなな(著)
フォイル

丸一佳夏先生のおすすめは……

『三千元の使いかた』

みなさんにとって、三千元は大きなお金だと思います。では、自分の親にとっての三千元はどんな価値があると思いますか？

この本は人それぞれお金の使い方が違う家族のお話です。

B913.6-ハ
原田ひ香(著)
中央公論新社

水谷朱夏先生のおすすめは……

①『爆弾』

昨年末、山田裕樹と佐藤二郎の実写化で話題になりましたね。

東京のどこかに爆弾がある。警察にゲームを仕掛けるすべてをコケにしたようなサイコパス男と、不敵に立ち向かう若き天才プロファイラー。わかりやすいB級スリラーのようなストーリーですが、作品に込められた根底にあるメッセージは「善くあろう」という祈りにも似たまっすぐなものです。頭がいい、頭が悪い、おもしろい、つまらない、美しい、醜い、豊か、貧しい。それらすべてと善悪とは本来何の関係もありません。我々は頭が悪くても、つまらなくても、醜くても、貧しくても、無関係に「善くあろう」という気持ちを忘れてはいけません。そんなことを思わせてくれる本です。

913.6-㊦
呉勝浩(著)
講談社



②『白夜行』

B913.6-7
東野圭吾(著)
集英社

みなさんが交際相手に求めることは、「言葉」でしょうか、「行動」でしょうか。

「好きだよと伝えたのに、ありがとうと言われて傷ついた」と、ある生徒が恋バナをしているのを聞いて、しみじみと昔読んだこの小説を思い出しました。

この小説は、二人の主人公「桐原亮司」と「唐沢雪穂」の半生を描いた傑作犯罪小説であり、傑作恋愛小説でもあります。

とても珍しい形式で書かれていて、小説の中に主人公たちの視点は一度も入りません。事件を追う刑事の視点、主人公らの友人の視点、知人の視点など、第三者から見た二人の姿を通じて、まるで監視カメラをザッピングするかのよう、物語は進んでいきます。二人きりで会話をするシーンは全くありません。この小説で描かれるのは、彼らがどのような愛の言葉を交わしていたかではなく、それぞれが別々の場所で、誰と、何をしたのか、という「行動」だけです。壁ドンもバックハグもなければ、キュンキュンときめくセリフも無い。それでも、読み終わった時には、この世にこれ以上の恋はないのだなあ、と嘆息することになるでしょう。

三ツ木理子先生のおすすめは……

『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』

140-キ
岸見一郎、古賀史健(著)
ダイヤモンド社

過去の失敗や今の成績、周りの環境のせいにして「変わらない」と思い込んでいる人にこそ読んでほしい。

アドラー心理学の教えは、厳しくも心に響くメッセージばかり。「過去がどうであれ、これからどう生きるかは100%自分次第！」他人にどう思われるかではなく、自分がどうしたいか。進路やこれからの生き方に迷っている人の背中を力強く押してくれる本です！

守谷真依先生のおすすめは……

①『なにも見ていない 名画をめぐる六つの冒険』

B723-7
ダニエル・アラス(著)
宮下志朗(翻訳)
筑摩書房

2013年9月、パリ第7大学にて。教授「この本が教科書です。あと、ほにゃらら(何言ってるかわかんない)の課題についてボンピドゥーセンターに行ってレポートを書いてきてね。」なんて？「私」

行ったけどさ、ボンピドゥー。

よくわかんないまま前の坂でカップケーキ食べて帰宅したよね。干支一回りしたけど、まだ読み切っていないだ、原書。On N'y Voit Rien.ずっと頭の片隅に居座っている存在です。

②『遊びと人間』

B104-カ
ロジェ・カイヨワ(著)
多田道太郎、塚崎幹夫(翻訳)
講談社

人間はなぜ「遊ぶ」のか？そもそも「遊び」とは何か？

個人的には「自主性」とかが大事なのでは…？と思うのですが、果たして。

ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』も一緒に読むと良いらしいので、興味のある方はぜひ。

③『そいつはほんとに敵なのか』

914.6-1
碓雪恵(著)
hayaoki books

「相手は間違っている加害者で、自分は常に正しい被害者であるという考えから脱却したい。未知の相手に触れて、自分の信じる正しさに揺さぶりをかけたい。不完全な自分を許し、不完全な他人を許す勇気を持ちたい。」(本文より)

たたたたた確かに――――。

相手を「敵」「合わない」と遠ざけて、小さな可能性を逃す人生より、あえて対峙してみても良いんじゃない？

④『ポムポムプリンと心ぽかぽかな毎日』

30周年なんですよ、今年。今これを書いている時点でサンリオキャラクター大賞の投票期間で、きっとこれが掲載される頃結果は出ているんです。1位取れてるかな…最高の景色届けてあげたいな…ばわるも20位以内にいてくれ…という気持ちです。『ポムポムプリンの『パンセ』』も大好きなんです、これも疲れた時にパッと開くだけで癒されます。チームプリン最高。

188-サ
サンリオ(キャラクター著作)
KADOKAWA

⑤『VTuber 学』

推してるからには理解しよう。という強い気持ちです。マリオクレープとポラマーマ、おいしかったです。

007-オ
岡本健, 山野弘樹, 吉川慧(編著)
岩波書店

結城唯善先生のおすすめは……

『あん』

どら焼きを食べているときにふと思い出したこの本はどら焼きの「あんこ」の話で、とにかくあんこがおいしそう。無気力な中年おじさん・千太郎は惰性でどら焼き屋の雇われ店長をしています。ある日、潰れかけ寸前の店を訪れた手の不自由な老女・徳江は、絶品のあんこを作る名人で、千太郎は徳江の弟子になります。この出会いで店は人気を取り戻していき、という物語…だと思ったら大間違いで、人生は簡単にうまくはいきません。それでも、読み終えて最後に心に残るのは、「生きることは「感じること」という素敵な言葉でした。月夜にどら焼きでも食べながら読んでみてほしいです。



913.6-ド
ドリアン助川(著)
ポプラ社

湯本美紀先生のおすすめは……

①『この夏の星を見る = Catching The Stars of This Summer』

コロナ禍による休校や部活動の制限などにより、登校ができない、学校行事が行えない、大会やコンクールがなくなる…など、失われたものが多くありました。しかしそのような学校生活のなかで新たに生まれたものもあった…という、暗闇の中に灯を見つけたような気持ちになれる一冊です。

913.6-ツ
辻村深月(著)
KADOKAWA

②『エピクロス処方箋』

『スピノザの診察室』の続編ですが、単体でも十分楽しめると思います。生まれて、生きて、そして死ぬ。ほとんど全員が同じサイクルを辿るのが生物の一生なのだと思いますが、そこに、特に「死」に医療はどうかかわるのか。この本をうまく紹介することは私にとって難しいので、是非皆さん自身が手にとって読んでみてください。ちなみに前作『スピノザ〜』もいい本なのですが、やはりうまく紹介することができそうになく、過去に推薦本として挙げることはできませんでした。どちらもおすすめです。

913.6-ナ
夏川草介(著)
水鈴社

③『星の教室』

皆さんは夜間中学を知っていますか？さまざまな事情で義務教育を終えることができなかった、さまざまな年代の人が通う場です。今の皆さんにとって「学ぶこと」は「面倒なこと」かもしれません。しかし、「学べる」ということは必ずしも当たり前のことではなく、「学べなかった」ことによる辛さや恥ずかしさを抱えて生き、そしてそれを何とかしたいと夜間中学で学びなおす人たちの姿が、この本には描かれています。そして「学校」のいいところは目の前の誰かに支えてもらえることだということを再認識させてくれます。

913.6-リ
高田郁(著)
角川春樹事務所

④『カラフル Colorful』



本屋大賞『カフネ』の作者ですが、私はむしろこちらの方を勧めたい。車いすユーザーの女子高生の話です。主人公たちも皆さんと同年代、悩んだり、憤ったり、挑戦したり…読んでいく過程でいろいろな気づきをくれる一冊です。

913.6-7

阿部暁子(著)

集英社

吉浪祐香先生のおすすめは……

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

現代の少女が戦時中の日本にタイムスリップし、特攻隊員との切ない恋を通して命の尊さを描いた作品です。戦時中という厳しい時代の中で、人を想う気持ちや「生きること」の意味が丁寧に描かれています。重いテーマではありますが、その分、一日一日を大切にしたいと強く感じさせてくれる一冊です。読後には、当たり前の日常が少し違って見えるはずですよ。

B913.6-7-1

汐見夏衛(著)

スターツ出版

鈴木しのぶ司書のおすすめは……

『源氏物語 A・ウェイリー版』

昨年春、高校図書館から離れました。その時、一番後ろ髪をひかれたのが、この本でした。まだ全てを読み終わってはいません。折々に、あの女性の話はどのような風なのかしらと少しずつ読みたかったのです。

この本は、一度ウェイリーによって英語訳されたものを、日本人訳者によって日本語に翻訳しなおされるというややこしい生い立ちです。そのせいで、主語にあたる人物がわかりやすくなっているうえ、知識がなくても和歌の意味が理解できるように書かれています。そしてちょっと不思議な異国情緒も漂います。私は末摘花の話が好きなのですが、彼女を訳すとサフラン姫、末摘花は得体のしれないふるきの皮衣を来ていますが、サフラン姫は昔流行したセーブルの毛皮マントを身に着けています。そういわれると、没落した彼女のイメージが豊かに膨らみますよね。ほかの女性たちもきっと、現代の私たちに親しみやすくなっているはずですよ。

一年ぶりに手にした本はクリムトの絵が表紙を飾り、とても華やかで美しく、手に取って読んで語り掛けてくれるようです。この図書館に帰ってこられて、よかったです。

913.3-4-1~4

紫式部(著)

A. ウェイリー(英訳)

毬矢まりえ, 森山恵(訳)

左右社

横関麻里司書のおすすめは……

『明治のナイチンゲール大関和物語』

NHK 朝の連続テレビ小説「風、薫る」の原案です。大関和(ちか)さんは、日本で最初の「トレインド・ナース」のおひとりです。生まれた時はまだ江戸時代、明治の文明開化とともに成長した女性は、本当に波乱万丈の人生を送りました。和さんと周りの人たちは、日本に「看護婦」を根付かせ、職業として確固たるものにしました。明治の時代背景、歴史物としての要素もあり、学術的でありながらとても読みやすいお話です。

B289.1-0

田中ひかる(著)

中央公論新社

